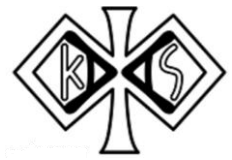


加 佐

12月号

令和7年12月1日

舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



那須与一になってみた



秋晴れ清々しいある日、2年生がワイワイとグラウンドに集まっています。国語の教科書にある古典：平家物語『扇の的』に登場する弓矢の名手：那須与一の件を再現・体験しようとするものです。文中「扇との間は40間余り…」を70メートルと換算し、すこし大きめの（段ボールの）「扇の的」を立て…。弓矢はさすがにないので、野球のボールを投げてみました。当然「70メートルを投げる」のもやっとですから、一射で（一投で）命中するわけもなく、ちょっとずつ近づいて…近づいて…、30mくらいに近づいてやっと「当たった！！」となるわけです。（女性陣には酷な実験でしたね。。）

「的当てゲームを楽しんだ」（が目的ではなかったんですが…）と捉えられても仕方ありません。最近「家族で時代劇を見る」なんて光景も少なくなったのではないのでしょうか。これまで古文（歴史的仮名遣い）は習ってきたものの、字面を読んだだけでは、やっぱり景色は描き切れないだろうし、ぼくらは好きなだけ（当たるまで）ボールを投げ続けるんだけど、与一は命を懸けて「あの扇の真ん中射させてたばせたまへ」と祈るのです。800年前のお話です。つらつら読み進めれば数分ですけど、1時間かけて（ワイワイ言いながら）当時の平家と源氏に感情移入する。現代社会では一切使うことのないだろう「歴史的仮名遣い」を読むことこそ「文化的な学び」であると感じてほしい。もっと平べったく申しますと、卒業して何年かして、グラウンドの脇を通り過ぎるとき「そういえば『扇の的』の再現実験をやったな〜」って思い出すだけでもやった意味はあるかな？

「学び直し」はいくつになってもできますから。みなさんも「平家物語」の世界観をもう一度味わってみませんか。



あたらしい放課後活動

舞鶴市は「中学校部活動の地域展開」を令和3年度から進めています。今秋の実証事業も63団体が受け入れてくださり、加佐の子どもたちも「やってみたい！」競技や文化活動に参加しています。（保護者さんに送迎をお世話になっています。ありがとうございます。）同時に学校では「生徒の主体性」や「異年齢コミュニケーション」「企画運営・司会進行」といった、これまで部活動が担っていた「子どもを育てる」場面を創出したいと思って「あたらしい放課後活動」に取り組んでいます。先日は、フィンランドのスポーツ「モルック」をやってみました（ちょっとしたブームなんですよ！）。年齢・性別や体力差に関係なく、誰でも何人でも楽しめるので、PTAや地域にも呼び掛けました。（残念ながら、平日の昼間でしたので、参加は叶わず。またお誘いします。）「競技スポーツに『打ち込む！』」とか

「心身を『鍛える！』」という性格ではありませんが、子どもたちにとっては「自分たちでイベント運営ができるんだ！」「呼びかければ、みんな集まってくれる！」など。

保護者・地域の皆さんも「いつでも学校に集まれる。」「子どもの成長が間近で見守れる」ちょっとした楽しみになりますでしょうか。「地域の子どもの地域で育てる」

モデルになれば！ と試行錯誤中です。引き続き、ご協力ください。



舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同